都市デザイン研マガジン　第26号

毎月 1&15 日発行

2006.5.1　東大西村・北沢研究室

編集・発行：　石井宏典、塩澤諒子、坂内良明

http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

春本番・プロジェクト、自主活動一斉始動

積極参加Ｍ１、早くも多忙週間

４月第３週の週明けに、諸活動の年度始めミーティングが集中開催された。短くて１時間、長いものでは３時間。休憩なしの濃密ミーティングを朝から夜まで渡り歩いた M1 面々は、「疲れたが、どのプロジェクトも魅力的で、やりがいがありそうだった。どこをやるべきか迷う」と興奮気味だった。

４月 24 日（月）

10:00　喜多方プロジェクト　諸活動の先陣を切るミーティングに、Ｍ１・７人が集まる。前年度までは、市全域を扱ったプランをつくったが、今年度は地区レベルを中心に活動する方針。「地区の景観計画を策定するという話に興味を覚えた」（M1）

12:30　English Seminar　韓昊英Ｄ２の呼びかけで始まったこのセミナーは、４月 17 日の第１回に続いてこの日が第２回目。Ｍ１・９人、留学生８人ほかが２階輪講室を埋めた。発表は、ユイ Ｄ１のバンコク都市紹介、ファズリ M1「マレーシアにおける都市デザイン」、宋珍和Ｄ１、韓Ｄ２による雑誌論文レビュー。西村教授も参加し、「研究室会議の英語バージョンとして、準公式的な位置づけでやってほしい。スケジュールの許す限り、参加していきたい」とコメントの後、おすすめ英語文献数点を実物紹介。

■ファズリ M1 の発表を見守る西村教授（右）と野原助手（中央）
English　Seminar にて

15:00　新宿景観プロジェクト　新宿区の景観計画改訂に向けた調査・提案を行う新プロジェクト。９階院生室には、Ｍ１全員のほか、昨年 12 月の「ベルク本郷まちあるき」を経験したメンバーも数名が加わって、20 人超が集まった。全体説明後、早速「落合」「箪笥町」の２チームに分かれ、５月 11 日の合同ミーティングまでに各々まちあるき、景観調査、地図作成などを実施することとなった。

■新宿プロジェクト
総立ち見の参加者 20 余人

17:00　京浜臨海再生プロジェクト　柏・北沢研のメンバーは全員参加。「歴史」色の強い他プロジェクトと一線を画す当プロジェクトは、Ｍ１の参加希望ランキング・トップ。「ブラウンフィールドなど、これまであまり考えたことのないトピックが新鮮だった」（八尾プロジェクトとの「かけもち」を検討するＭ１）

４月 25 日（火）

8:00　読書会　研究室会議で復活宣言した幻の読書会に、早朝開催をものともせず、Ｍ１・３人が参加。中島助手、坂内 M2 の従前メンバーに、イギリスで「建築の七燈」を購入して帰日した岡村Ｄ３が加わって、過去最高の６人で、約９ヶ月ぶりの会が開かれた。人数倍増を活かして、「七燈」は G.W. 明けに読了予定。

20:00　八尾プロジェクト　研究室会議（4/20）のおわらパワーポイントに惹かれたＭ１・７人が参加。続行プロジェクト中最多の既存メンバー7 人が迎え討った。５月連休中の曳山祭が、プロジェクト現地活動の年度始めとなる。

中島助手「都市美」博論発表　「大河ドラマ」に固唾のむ聴衆

■発表会風景　左端が中島助手。右に、主査・副査教授陣が並ぶ

４月 17 日午前 10 時、14 号館 802 教室。立ち見のギャラリーを前にして、中島直人助手の博士請求論文「都市美運動に関する研究」の口頭審査が行われた。「昨晩、当研究ははたして「工学系研究」にあたるのかどうか、はたと思い当たって思案した」と飄然口火を切るや、５年の研究集大成を重厚・パワーポイントに乗せて、息つく間もない１時間。500 ページ超の大著は、ごく簡明なタイトルが却って、「都市美運動の全容網羅せり」の自信をにじませる。副査の鈴木博之教授（建築史）は「大変な労作」と賛を惜しまず、北沢猛教授（同じく副査）も、「部分的な論考はもちろん折にふれて目にしていたが、このようなかたちで全体構成がなされるとは。まるで、大河ドラマを見ているようだ」と、感嘆の声を漏らした。

◆イギリス産業遺産調査報告　　D３岡村祐、田中暁子◆

3月28日から１週間、英国における産業遺産を活かしたまちづくり先進地の取り組みを調査してきました。調査の依頼主である島根県雲南市吉田町（旧吉田村）は、伝統的な製鉄法である「たたら製鉄」によって江戸期に栄えた町で、たたら場の復元、鉄の歴史博物館の創設など鉄文化を活かしたまちづくりを進めています。そして今、更なるまちづくりのアイディアを先進地英国に求めたのです。調査地はIronbridgeとCornwallです。

Ironbridgeは、世界で最初の鉄橋が建設されたことで有名な町ですが、町全体を博物館と捉えた地域づくりを進め、屋外ミュージアムの先駆けとしても世界中からの耳目を集めています。特に近年は、子供たちに対する地域学習プログラムに力を入れていることもあり、オフシーズンであるにもかかわらず、町はそれなりの賑わいをみせていました。

Cornwallは、かつてすずや銅の採掘で繁栄した地域で、広範に渡って、採掘に必要な動力を得るためのエンジンハウスや鉱山主や鉱夫らによって形成された鉱山都市が遺されています。現在、これらの採掘に関する産業遺産の活用はもちろんこと、イギリスの西端というCornwallの立地から、英米を結ぶ地下ケーブル、Marconiによる世界で最初の無線通信、世界初の衛星放送電波受信局（Listed Building）といった常に通信技術の先端を行った場所であり、情報産業に関する遺産もまちづくりに活かされはじめています。

さらに、今回の調査を通して、英国農村地帯におけるランドスケープの美しさやまたそれを充分に活かした foot path の有用性を体感でき、大変実りの多いものとなりました。

Ironbridge と Cornwall の位置

■写真左上／吉田の屋並み
■写真左下／Cornwall：海岸沿いのエンジンハウス
■写真右上／Ironbridge
■写真右下／Cornwall では、日本の産業遺産にも大変お詳しいスミス氏（写真左）に案内していただきました。スミス氏は前の Ironbridge Museum 館長でもあり、今の Ironbridge の賑わいは彼の功績に依るところ大です。Cornwall でも、今の鉱山を活かしたまちづくりの他、諸博物館の立ち上げ、Marconi の無線小屋の保存など常に時代の先を見据えるその姿に大変感銘を受けました。写真右は Marconi Radio Station でボランティアガイドをしている David 氏。

■第１回研究室会議、新歓コンパ■　4 月 20 日 15 時より、2006 年度初の研究室会議が開催された。今年度の新入生 14 名（前号に掲載・M1：9 名、D1：1 名、柏・北沢研：4 名）の自己紹介、各プロジェクトの活動紹介が 3 時間休憩なしで目白押しに行われたあと、西村教授による「研究室へようこそ」スピーチがあり、M1 の係り決めも行われた。19 時からは、総勢 40 名での新歓コンパ。**（写真：　ラフなスタイルが柏流？　北沢教授、飲み、語る）**

まさにプロ、OB 橋本氏　柏の PC ネットワークを構築せり　　現役時代、凄腕の PC 担当として名を馳せた橋本幸曜氏（卒計対象地は秋葉原）。院修了後、NTT 関連会社に就職し、そのスキルに磨きをかけていたところ、北沢教授からの協力要請を受け、柏の研究室の PC ネットワーク構築をボランティアで担当することに。

4 月 23 日（日）午前 11 時、人気のない柏キャンパス、北沢研の平林 M１（PC 担当）、松尾 M１に、半ばピクニック気分であった中島助手、鈴木 M２を従えて、休日出勤の北沢教授立会いのもと、満を持してパソコンの電源を入れ、作業開始。途中、事前注文の OS が届いていないという深刻なトラブルに見舞われながらも、格闘の末、19 時過ぎまでには見事、サーバー立ち上げ、共有パソコン整備に成功した。その後、裕に 100 頁を超える自作・取り扱いマニュアルを、さり気なく寄贈。修了してなお研究室を縁の下で支える橋本 OB に、一同ぞっこん、惚れ直さずにはいられなかった。（中島）

★新・新聞係り☆
自己紹介

４月からＭ１・２人が、志願して編集部に参入！初編集会議後に、抱負を聞きました。

●石井宏典Ｍ１●

マガジンは研究室の重要な「窓」ということで、この仕事に大きな責任を感じております。中身の濃いデザ研の活動を余さず伝えられるよう、先輩方のご指導を仰ぎ、技術を盗みつつ、今後尽力したいと思います。

●塩澤諒子 M1●

マガジンは内にとどまらず外にも発信される重要な情報源。責任の大きさに不安もありますが、楽しんで役割を全うしたいです。紙面デザインに腕を振るいながら、マガジンの「顔」としてがんばります。

編集後記　M1 のめざましいスタートダッシュのおかげで、9 階共同大机はたちまち新宿資料で溢れ返った。反対に、容量一杯でにっちもさっちもいかなかった共同 PC は、先日の大掃除でずいぶん余裕ができたという。現実空間にも PC 内空間にも限りがあるから、情報を収集・展開することと、取捨・収斂することが同時並行的に求められるわけだ。しんどいけれども、「生産的」であるとはそういうことなのだろう。先月のあいだ「メモリ不足」気味だったマガジン編集部は、新戦力を得て高速稼動へと向かいます。（坂内）